

令和2年度第6回 小平市環境審議会 会議要録

1 日 時

令和3年3月25日(木) 午前10時～11時35分

2 開催方式

Web会議形式

※大会議室を傍聴のために開放

3 出席者

○小平市環境審議会委員 10名

奥真美会長、中島裕輔副会長、小口治男委員、中川都委員、西村守正委員、服部千春委員、井内真委員、鈴木庸夫委員、小柳知代委員、青山一彦委員

○事務局 15名

環境部長、環境政策課長、環境政策課長補佐、環境政策課環境対策担当係長、環境政策課計画推進担当2名、資源循環課長、資源循環課長補佐、水と緑と公園課長、水と緑と公園課長補佐2名、水と緑と公園課緑化推進担当、下水道課長、下水道課長補佐、下水道課計画担当係長

4 傍聴者

0名

5 議 題

- (1) 令和3年度環境部が担当する主な事業の概要について
- (2) 人と動物の共生社会の推進について
- (3) 都市計画公園の整備状況について
- (4) リサイクルセンターの稼働状況について【報告】
- (5) その他

6 配付資料

資料1 令和3年度環境部が担当する主な事業の概要について

資料2 環境建設委員会政策提言「人と動物の共生社会の推進について」(案)の概要について

資料3-① 都市計画公園整備に向けた進捗状況について

資料3-② 参考図面

資料番号なし 小平市リサイクルセンターだより(令和2年11月号)

7 内 容

(1) 令和3年度環境部が担当する主な事業の概要について

(事務局)

資料1に沿って説明。

(委員)

省エネルギーの推進について、ESCO事業はLED化だけでなく、温水プールのボイラー更新にも活用されるのか。

(事務局)

市民総合体育館を所管している部署から、LED化よりも温水プールのボイラーの更新を優先したいとの話があり、LED化で削減された電気料で、ボイラー更新を行うということとなった、LED化とボイラー更新を組み合わせ、ESCO事業を実施する。

(委員)

今後、熱源機の更新が重要になってくる。市民総合体育館などは安定して熱需要があるため、小型のコージェネレーションシステムを導入して、熱は温水プールで使い、電力は災害時にも使えるようにすれば、防災機能も向上する。設備更新時には、省エネだけでなく、安全安心という視点で総合的なメンテナンス更新を検討すべきである。

(会長)

今回のESCO事業には、何か防災の観点は組み込まれているか。

(事務局)

市民総合体育館には太陽光発電システムが設置されているため、LED化により使用電力を削減できれば、電力をより一層賄って避難所として機能が向上する。また、第三次環境基本計画では家庭用燃料電池なども推進していくため、公共施設でも、コストはかかるがコーディネーションシステムも推進できたらと考える。

(委員)

今年度はコロナ禍もあって、大学の研究室で首都圏の体育館や教室の換気設備の整備状況を調査した。都内は換気設備の整備が進んでいるが、都外は全然進んでいない。コロナ禍では、教室は広めのスペースが必要になるし、換気設備の整備も重要で、さらに災害時の電力確保も必要になってくる。今後は総合的に検討していく必要がある。

(委員)

学びと協働の推進の「普及啓発による環境意識の向上」の項目では、6月の環境月間に合わせ

て、講演会やパネルディスカッションからなるシンポジウムを行うようだが、準備状況はどうなっているか。

(事務局)

基調講演ではテレビに出ているような気象キャスターの方をお呼びすることを考えており、パネルディスカッションのファシリテーターには当審議会の奥会長に話をさせていただいている。このほか、パネリストには小平市に関わりのある方などをお呼びする。具体的にはこれからとなるが、このような形で検討している。

開催日は6月6日の日曜日、ルネこだいらの中ホールで午後1時30分からを予定している。詳細については、改めてご案内をさせていただく。

(委員)

コロナ禍で講座を開催する場合、会場に集まる方法とオンラインの方法がある。6月にコロナが収束した場合、オンラインをやめるという考えはあるか。会場に来られる方のほか、オンラインで参加する方もいると、参加人数が増えると考ええる。

(事務局)

コロナ禍での講座について、オンラインで実施しており、かなり手応えを感じている。先日の環境フォーラムも会場に来られる方と、Zoomで参加する方というハイブリッドな形で実施し、好評をいただいた。

シンポジウムについても、ライブ中継ができるのか、もしライブ中継ができない場合でも、それを録画して後日 YouTube 等で配信できないかということ、現在検討中である。普及啓発は多くの方に見て、知ってもらうことが大事と考えている。

(委員)

事業番号11「生垣造成補助事業」について、国の補助金の充当がなくなっても継続することだが、補助を求める方がまだ多くいるということか。

(事務局)

これまで社会資本整備総合交付金という国の補助事業を活用していたが、今回、生垣への助成が対象から外れた。件数自体は減少傾向にあるが、重要な事業と捉えており、市の予算だけで今後も事業を継続していくことを考えている。

(会長)

新たに生垣を造成する場合だけでなく、維持管理についても助成はあるか。

(事務局)

新たに生垣を造成する場合と、ブロック塀があった場合に、その撤去費用も助成の対象としている。

(委員)

一般の道路などに面している生垣のほか、用水路沿いや、宅地と宅地の間のブロック塀を生垣にすることなども、検討いただきたい。

(事務局)

国の補助金はなくなるが、事業内容はこれまでと同様のものになる。市の生垣の助成金の特徴としては、道路に面したところだけでなく、隣地との境界にある生垣も助成対象としている。

(委員)

事業番号 7 の生ごみの堆肥化について、1,300 世帯を市の制度に誘導するようなイメージなのか、それとも 1,300 世帯にコンポストを導入することを考えているのか。

(委員)

市内の 1,300 世帯の方がバケツに生ごみ等を出していただいたものを回収して堆肥化するという事業であり、生ごみ処理機とは別である。

(委員)

事業番号 5「雨水貯留・浸透施設の設置促進」で検討予定の施設はどのようなものか。また、公園に設置する計画はあるか。

(事務局)

小平市第二次下水道プランで位置付けたプラスチック製の雨水貯留・浸透施設を予定している。設置位置は道路下を想定しており、大雨時に道路の雨水ますから流入する雨水を貯留・浸透させることで下水道への流出量の抑制を行い、浸水リスクの低減を図る。

令和 3 年度に基本設計、令和 4 年度に詳細設計を実施したのち、令和 5 年度以降に工事着手する予定である。

(委員)

事業番号 7 の生ごみの堆肥化について、利用したいと思ったことがあったが、3 世帯以上でグループを作ってとなると、個人的に利用したくても周りの世帯を集めないと申請できないという点でハードルが高い。

(会長)

回収の効率性の点から条件を付けていると思われる。

(事務局)

まさに効率性の点があるが、それでも要件的には緩和してきている。従来は5世帯以上としていたが、なかなか集まらないということで、現在は3世帯以上としている。新規に人が集まらないのであれば、実施しているところに加わっていただくという方法もある。

(会長)

市に問い合わせれば、紹介していただくことも可能か。

(事務局)

個人情報になるため、何回かやり取りが必要となるが、紹介の方はさせていただく。

(委員)

私も活用したいと思ったが、近所のたくさんの方に声をかけてというのが、すごく抵抗があった。これまでの5世帯以上が3世帯以上に減ったため、今後検討したい。

(会長)

事業番号16「公園等アダプト制度」が拡充となっているのはなぜか。

(事務局)

令和3年度に、さらに1公園を導入を予定しているため、拡充と記載させていただいた。

(会長)

今後に向けての意見もいろいろあったので、政策展開に当たり参考にさせていただければと思う。

(2) 人と動物の共生社会の推進について

(事務局)

資料2に沿って説明。

(委員)

提言が市議会で検討されることになった経緯がわかれば教えてほしい。

(事務局)

動物との共生については、犬と猫に関してはこれまでに市議会で何度か質問されており、環境建設委員会のメンバーで先進市に視察に行くなどの研究もしてきた。また、猫に関して活動している市民団体のことが話題となったり、子どもの頃からの教育が大切ではないかといった話も出ており、このような機運の高まりにより、今回、提言を出されることとなったと捉えている。

(会長)

市議会からこのような政策提言が出されるというのは、過去においてもあったのか。

(事務局)

今回は公園に関して政策提言があった。委員会一期ごとに一つ政策提言等が出されている状況である。

(委員)

提言を正式に受理したら、いつから取り組んでいくことになるのか。

(事務局)

予算を伴うものについては、予算の獲得が必要になるので少し遅くなるかもしれないが、予算を伴わないものについては、令和3年度から、できることから取り組んでいきたい。

(委員)

犬や猫などペットについての提言のようですが、たぬきや、最近増えている外来種のアライグマ、ハクビシンなどの野生動物については、この提言とは別に対応を考えているのか。

(事務局)

今回はペットについての提言である。アライグマやハクビシンの対策はこれまでも取り組んできたが、第三次環境基本計画にも位置づけており、引き続き対応する。

(委員)

ペットの災害対策で、「すべての市民における災害時のペットの同行避難についての理解促進」とあるが、整備促進というような内容も入れた方がいいのではないか。

(事務局)

同行避難については、ペットを飼っていない方の理解が進んでいないため、まずはこの同行避難について広く知っていただくことが大事ということで、今回の政策提言になっていると捉えている。その先の整備もとても大事なことなので、十分視野に入れながら、市としてはこの提言を受け止めること考えている。

(委員)

「ドッグランの整備の検討」とあるが、どこに作ることを考えているのか。

(事務局)

現在 NPO の方が運営するドッグランが、小平駅と花小金井駅の間のグリーンロード沿いの「た

けのこ公園」に一つ設置されている。提言の中ではもう1か所、西部地区などの違うエリアでも検討してほしいという内容のようである。

(会長)

本日出た意見を、市から市議会に伝えるような手順を踏むのか。

(事務局)

この提言については、正式に受理した後に、どのように対応したかをどこかのタイミングで市議会に報告する機会が設けられる。本日出た意見を踏まえて、市で何ができるか整理して対応を検討する。また、本審議会にも報告させていただく。

(3) 都市計画公園の整備状況について

(事務局)

資料3-①、②に沿って説明。

(委員)

鎌倉公園の図面について、公園の周囲は柵等で囲むのか。

夜間などは公園内の照明は点くのか。

また、遊具エリアにマルシェなどができるよう調理や加工スペース等は設置するのか。

(事務局)

公園の周囲については、現在柵を設置することは考えておらず、樹木等を植栽することを考えている。園内については、公園灯を設置し、照度を確保する予定である。

マルシェについては、今後農にふれあうエリアの活用について検討する中で、検討していきたい。

(委員)

夜間に公園内を女性が通行することもあるため、防犯面を含め、照度を確保してほしい。

農にふれあうスペースについても農産物やお菓子屋さんなど様々な人々が活用できるエリアとしてほしい。

(委員)

公園整備の手法として、民間を活用したPFIなどが考えられるが、どのように考えているか。

(事務局)

市では、鎌倉公園と鷹の台公園の大きな都市計画公園を二つ整備する予定である。鎌倉公園については農にふれあうというコンセプトがあり、鷹の台公園についてはコンセプトが決まってい

ない状況であるが、整備した後の維持管理も含め、民間事業者等の活用を想定する必要があると考えている。最近ではレストランやカフェがある公園もあるが、明確な方向性は決まっていない。

(委員)

鎌倉公園には、駐輪場や管理棟があるが、指定管理者制度を活用する予定か。

(事務局)

鎌倉公園の管理体制については決まっておらず、指定管理者制度も一つの方法として、今後検討していくこととなる。

(委員)

鎌倉公園について、宅地化等で農地が減少しているなかで、農地を活かし、公園づくりをすることは素晴らしいことだと思うが、既存の農地と公園が完成した時の農地面積の差はどれくらいか。

(事務局)

計画では既存の農地の3分の1程度を農にふれあうエリアとして位置づけている。市としても可能な限り多くの農地として残していきたいと考えているが、維持管理や運営面、他の農業公園の事例等を踏まえると、これぐらいの面積となる。

(委員)

鷹の台公園のアンケートを実施したとのことだが、結果は公表できるものなのか。

(事務局)

現在集計中だが、集計が終了したらホームページなどで公開することを検討している。

(会長)

鎌倉公園についてはパブリックコメントを実施したが、結果はどうだったのか。

(事務局)

25名の方から意見があり、一部意見を反映させる方向で検討している。

(4) リサイクルセンターの稼働状況について【報告】

(事務局)

リーフレットに沿って説明。

(委員)

「リサイクルセンターだより」を初めて発行したとのことだが、位置付けや、今後の発行頻度を教えてほしい。

(事務局)

リサイクルセンターは住宅街にあるため、周りの住民の方から何を行っている施設かという素朴な質問をいただくことがある。1年経ったのを機に、この施設が何をしているかを報告した方がいいだろうということで作った。今後は年1回程度発行し、稼働状況などを伝えていきたい。

(委員)

いろいろな数値が書かれているが、説明が不足していると感じる。例えば、太陽光発電システムの稼働状況については、説明では施設の10%程度を賄っているとあったが、紙面ではわからない。排出物の量も、1年目なので最初は過去との比較がしにくいとは思いますが、想定通りなのか想定以上に増えているかなど、コメントがもう少しあるとよいと感じる。

また、取り除かれた異物の写真があるが、分別を徹底してくださいというようなメッセージを載せたり、リプレこだいらや環境学習機能もあるので、積極的に来てくださいというようなアピールなども検討いただきたい。

(事務局)

初めて発行するに当たり、手探りで作った部分があるため、数値の見せ方など、次回以降検討していきたい。

(会長)

環境測定の結果も数値だけを表にまとめているが、公害防止基準と同等、もしくはそれを上回るような数値も出ているようだが、近隣からの苦情は特に寄せられていないか。

(事務局)

隣に工場があることから、その影響を受けたと思われる数値もある。今後、周囲の影響を受けずに、リサイクルセンター自体の音や臭気を純粹に測れるよう努めていきたい。今回の発行により、周りの方から大丈夫なのかという問合せは今のところはない。

(会長)

数値だけを並べてしまうと、不要な懸念を与えてしまうこともあるので、説明を載せることについて検討いただきたい。

(5) その他

(事務局)

今後の環境審議会日程を連絡。